平成２９年度神戸市ソーシャルビジネス推進委員会

■日　時：平成29年8月3日（木）13時～14時30分

■場　所：神戸市勤労会館406号室

■委　員：加藤恵正（兵庫県立大学政策科学研究所教授）、中塚博和（日本政策金融公庫神戸創業支援センター所長）、内橋秀明（兵庫県中小企業家同友会事務局長）、小倉譲（しゃらく代表理事）、飛田敦子（CS 神戸理事）、能島裕介（ブレーンヒューマニティー理事長）、黒子真寸美（神戸市産業振興財団創業・新事業支援部長）、本木時久（生活協同組合コープこうべ執行役員）

［欠席］小倉譲（しゃらく代表理事）、本木時久（生活協同組合コープこうべ執行役員）

■神戸市：山根賢治・武藤紘明・木澤幸代・大西雄紀（市民協働推進課）小嶋新（協働コーディネータ／しゃらく）

■内　容：

１．開会

-事務局より新委員の紹介を行う。（黒子委員・本木委員）

-事務局より加藤委員長に対して委員長の指名を行い、他の委員の承認を得る。

-委員長ご挨拶

２．委員間の情報及び問題意識の共有

３．過去の認証・採択団体からの報告(13:25-13:55)

-神戸介護ケアウイング（平成 24 年度 KOBE ソーシャルビジネスマーク認証　認証団体）

【委員発言】

　神戸マイスターは業界団体から推薦頂いて産業振興財団が審査し、市長の認定によってマイスターの称号が与えられるという流れになっている。ソーシャルビジネスの場合、業界団体そのものがそこまでいっていないので、推薦を得てというのが難しい。

【委員発言】

　マイスターの言葉自体に優良という意味がある。ソーシャルビジネスマーク認証は、ソーシャルビジネスというカテゴリーを示しているだけで、優良のニュアンスはない。エクセレントソーシャルビジネス等はどうか。

【委員発言】

　ソーシャルビジネスに取り組む事業者を対象に実施したソーシャルビジネスの実態調査では、収支が赤字の事業者は約３割で一般の中小企業とほとんど変わらない。ただし、ソーシャルビジネスの継続性を確保するには、事業性を強化し、事業収入と事業外収入とのバランスをいかに取っていくか、知恵を絞る必要がある。

【委員発言】

　あまりマーク認証の効果がなかったということであるが、実際にマークの認証をとった他の団体にも、マーク認証後どうであったか聞いて、総括評価を得る機会をつくってもいいかもしれない。

【委員発言】
認証した意味がなかったということであれば、意味をつけるか、この制度をやめるのか、その選択をしなければいけないタイミングなのかもしれない。
【委員発言】
外部機関が認証している京都の事例は、制度としては神戸市のマーク認証制度に近い。違うところは、人に見せる姿をつくっている点が異なる。京都市以外からも企業を呼んでいるようだ。参考にする点があるかもしれない。

-フリーヘルプ　　　　（平成25年度神戸市ソーシャルビジネス推進助成　採択団体）
【委員発言】
イギリスではビジネス的なアプローチが必要というが、聞いてみるといろんなところから資金を得ており、We have many pockets という。５キロ圏内での活動ということであるが、これは、特定の地域の中でマッチングして、地域全体で支援すべき人がいなくなるのが望ましいという考え。まさにＧＰ（General Practition）でイギリス的。
【委員発言】
この事業に倣った取組みが各地で広がることを期待したい。

４．ソーシャルビジネス推進事業の進捗状況及び意見交換(13:55-14:25)
（１）KOBEソーシャルビジネスマーク認証
（２）神戸市ソーシャルビジネス推進助成
（３）ソーシャルビジネスセミナー
（４）ソーシャルビジネスの認知度向上に向けた広報
（５）ＮＰＯ学生交流拠点「神戸ソーシャルキャンパス」
（６）地域協働ネットワーク構築に向けた人材マッチングＰＴ
【委員発言】
ＮＰＯだけでビジネスを考えるのではなく、企業家の知恵を盛り込んで、企業とＮＰＯをマッチングさせる仕組みがあったらと思う。
【委員発言】
ソーシャルビジネスマーク認証にはステップアップ事業の認証もあり、神戸市から認証されるだけでありがたいといった団体もあったはず。先ほどもあった実際ソーシャルビジネスマークを認証した団体にアンケートをとるのはどうか。

５．閉会